

2009年 社長(西尾 進路)年頭挨拶について

記者各位

新年明けましておめでとうございます。1月5日(月)、当社社長、西尾 進路は本社にて下記の通り年頭挨拶を行いましたのでお知らせいたします。

<要旨>

1. 2008年を振り返って当社グループの経営環境は、内需の減退・輸出採算の悪化・石化市況の下落・原油価格の急落によって、非常に厳しい状況にあり、その対策として「新日鉱ホールディングスとの経営統合」「九州石油との経営統合」「新価格体系の打ち出し」「大阪製油所の、中国石油(CNPC)グループとの合弁化」などの施策を打ってきた。とりわけ、「新日鉱ホールディングス・九州石油との経営統合」については、決して、規模拡大メリットのみを狙ったものではなく、むしろ単独ではなしえないような大掛かりな構造改革を可能にすることが目的である。

2. 2009年の重点課題2009年は、昨年、打ち出した第4次中期経営計画(以下、第4次中計という。)の2年目であるが、外部環境の急激な変化、さらにこの1年間の、九州石油統合・大阪製油所合弁化といった内的な変化要因を勘案し、第4次中計を見直すこととした。今回の見直しは、既存の第4次中計に、新規要因を「足し算・引き算」するだけが目的ではない。この内外の環境変化を踏まえた「不要不急の設備投資抑制」、「コスト削減の更なる上積み」、そして「事業計画の抜本的な見直し」が本当の目的である。昨年からの継続課題である「新価格体系の定着」、「製油所における安全・安定操業の徹底」に加え、「設備投資の抑制・コスト削減」は、来年4月のジャパンエナジーとの統合を待たず、当社単独で肅々と且つ確実に進めていく。今年10月に予定されているホールディングス会社の設立まで残された時間は非常に限られており、改革のスピードを加速させる必要がある。「今日出来ることは、今すぐにでも始める!」という気持ちを持って、自主的に取り組んで欲しい。「事業計画の抜本的な見直し」については、個別最適や徒な業容拡大に走り過ぎていないか、今の仕事が本当に当社損益に貢献しているのか、常に自問自答しつつ、地に足のついた戦略見直し・重点テーマの絞込みを強く願う。また足元の経営問題とは別に、業界のリーディングカンパニーとして、またCSR先進企業として、「環境対応」も重要なテーマである。当社グループの「持続可能な社会への貢献」「地球環境問題への積極的な取り組み」が、世間でも高く評価されていることは大いに誇るべきことであり、今後も継続していきたい。

3. グループ社員への期待2009年は、昨年の年頭挨拶で表現した「史上最悪」を更に上回る「空前絶後の危機的状態」にある。経営としても、この難局打開に向けた施策に知恵を絞っており、新日鉱ホールディングスとの経営統合という決断は、そのための大きな一手になると考える。この統合には、1+1が3にも5にもなる大きなシナジーが潜在していると確信しているが、痛みを伴う改革も避けて通れない。誰からも賛同され、誰からも喜ばれるような改革は、「改革」とは呼べない。我々経営も、当然ながら、皆さん以上の痛みを受け持つ覚悟は出来ており、是非、我々を信じて付いてきて欲しい。一方で忘れてはならないのは、「お客様あつての新日石」である。石油業界の経営環境が悪化した今こそ、常にお客様からの視線を忘れずに、真摯な対応と、誠意を持った話し合いを通じて、特約店・需要家・一般消費者の方々の声に耳を傾けることが重要である。新日石・新日鉱ホールディングス両社のベスト・プラクティスの実践による競争力強化を実現できれば、エクセレントカンパニーの地位を確立できる。だからこそ、今年が正念場となる。来年の年頭挨拶こそは、明るい話題で笑顔を交わせることを願っている。

以上